

【栄区】令和 8 年第 2 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 8 年 6 月 11 日（木） 午後 3 時 30 分～午後 4 時 30 分
場 所	栄区役所新館 4 階 8・9 号会議室
出席者	【座長】大桑正貴議員 【議員：2 名】興石かつ子議員、長谷川えつこ議員 【栄区：26 名】松永朋美区長、大野豊副区長、 雨堤崇福祉保健センター長、 丸山知明土木事務所長 ほか関係職員
議 題	1 令和 8 年度個性ある区づくり推進費執行計画について
発言の 要 旨	長谷川議員：13 ページにあるハピママ・ハピパパサロンを注視させていただいている。数多く開催されているが、実際にどれぐらいの方が参加されたのかと、参加された方の反応等はいかがか。 中村秀夫こども家庭支援課長：ハピママ・ハピパパサロンだが、1 回当たり、お母様とお子さんと 20 組を上限とし、お父様についても同様の数としている。実際に来ている数は、回数によっても若干異なるが、お父様が定員に対して半分ぐらい、お母様は 7～8 割ぐらいというような状況となっている。参加者からの声としては、初めてお子さんを産む方の場合には特に、お子さんが生まれるところといったことが起こるのかというようなことが知れてよかったとか、お父様も子供をだっこするときはこういうふうになるのだというようなお声があった。実際にそういったところを学ぶことによって、お母様を支援することができるのではないかという声もある。 長谷川議員：こちらはサロンということで、地域で出産された後、不安な妊婦の方とか、お母さんお父さんが集まていろいろと情報を共有することは大変すばらしいと思っているが、情報を共有するだけではなくて、誰かファシリテーターの方など、そういった出産とか育児のプロフェッショナルの方が何か助言する場になっているのか。 中村こども家庭支援課長：最初は保健師及び助産師がついていて、体操などのレクチャーをしている。その後に、それぞれお父様のグループ、お母様のグループというような形で分かれて、そこにもファ

シリテーターとして当課の専門職が入って助言等をしながら話を進めている。

長谷川議員：これから長きにわたってお子様の子育てが続いていくと思うが、いろいろとお子様の成長のスピードが違うので、そういったスピードをおのの個々の特徴として捉えていけることと、何かご不安なところがあったらすぐに区につなげられるような、そんな環境をぜひつくっていただきたい。

続いて、新たな担い手応援事業で、焼きそば大会をやっていると思うが、今年度もまたこの焼きそば大会を通じて地域の担い手の応援事業をやっていくということによろしいか。

櫻井智区政推進課長： 11月23日に開催を予定している。

長谷川議員：焼きそば大会も名人育成講座も大変盛り上がっていて、いろいろなおいしい焼きそばを食べ比べながら、それぞれの地域の特徴みたいなのが出ていていいなと思っている。大会本番は、私もお邪魔させていただいたが、本当に大人気で長蛇の列なので、その列の指導とか、焼きそばも人気のあるところが1時間もたたないで終わってしまって、後から来た方がもう終わっちゃったのかということになってしまったこととか、今回もどの程度の規模でやるのかということと、会場の設営と誘導等、そういったところにもう少し人員を配置されるような工夫を何か今後していくのか。

櫻井区政推進課長：今後の詳細はこれから検討していくことになるが、ご指摘の課題等は我々も認識しているところなので、改めて地域の方々と相談しながら対応していきたい。

長谷川議員：次に、24ページの横浜グリーンエキスポのプロモーションに関わることだが、すごく今、町なかでもこの横浜グリーンエキスポに向けた広報を目にする。機運醸成に向けてすごく盛り上がってきていると肌で感じてはいるが、実際、栄区の方々が会場に行く際に、交通の利便性がなかなか大変だと思っている。そういったところで、区民の方が横浜グリーンエキスポに行くときに、交通でアクセスする方法とか何かそういったものもお知らせしていただきたいと思っている。

松永区長：シャトルバスなどについては主要駅からということを出ているが、栄区からはどのルートを使うと行きやすいみたいなことをお知らせすることをまだ考えていなかったもので、そのような広報の

仕方もできたらと思う。

長谷川議員：ボランティアも含め、たくさんの市民の方がこの期間中に行かれると思うので、皆様が効率よくこちらの会場に行って、長い時間楽しんでいただきたいので、そちらのほうもぜひよろしくお願いしたい。

あと最後に、こちらは最近、私のほうに大変寄せられている話だが、ネズミ等、そういったものがすごく増えているということと、ごみを荒らすカラスも大変増えているという話がある。このことに関しては各局またいでやられていると思うが、栄区に関してはネズミ等、そういったものの相談を受けていると聞いている。また、受けた場合に事業者を案内していると聞いているが、事業者も対応にばらつきがあるそうなので、ここをふさがないと結局またネズミが入ってきますよと、高額なリフォームの金額を提示されたりして区民の方が困っているというようなお話もある。ネズミとか害獣の情報がどの程度入ってきているのかということと同時に、事業者の選定はどのようにされているかについて伺いたい。

松木諭和生活衛生課長：当課では犬猫のペットや、衛生害虫等の相談を受けている部署になり、ネズミに関して相談対応を行っているので、ネズミに関して回答させていただく。区に寄せられる相談件数がここ数年増えてきている。昨年度末時点での1年間の集計では175件、その前の3年間は、令和6年度205件、5年度136件、4年度64件なので、ここ3～4年で相談件数が増えているという状況になる。駆除に関しては、区役所から駆除にお伺いすることはないので、対策方法を、例えば家に入ってくるような隙間があったらふさいでいただくとか、餌になるようなものを置かないとか、かじられるようなものがあつたら、食品とか開けっ放しではなく、蓋ができる容器にしまっただく等々のアドバイスをしている。特定の事業者の紹介はできないので、公益社団法人神奈川県ペストコントロール協会という駆除業者の団体の事務局の連絡先を紹介している。今年度の区の事業としては、ネズミ対策に関して、専門業者の方を講師にお招きしてセミナーを開催する予定で、具体的な日にちなどはまだこれからだが、ネズミの生態や駆除事例の紹介など、分かりやすい内容でお困りの方に知識を身につけていただいて、効果的な対策に取り組んでいた

だけるようなものとしたいと考えている。

長谷川議員：ネズミの駆除に関しても、そういった情報を提供していただけるとありがたいので、ぜひ今年度の事業としてやっていただければと思う。

興石議員：最近、小学校１年生のランドセルに黄色いカバーをかぶせてしまうと、色とりどりのランドセルをそれぞれすごく工夫して選んでいるのに、入学するとみんな黄色になってしまって、これは何とかならないのかと言われる。全部かぶせるのではなくて、反射とかそういう機能は残しつつ、黄色のたすき状にするとか、透明で一部黄色とか、そういうのを栄区でタッチーくんをあしらって独自に出してくれたりすると、子供たちに多分喜ばれるという話をいただいている。

吉田登地域振興課長：そういったところまで考えが及んでいなかったというのが実情なので、今、ご提案いただいたことを警察や交通安全協会の皆さんにも共有させていただきながら、今後こういった対応が取れるか考えていきたい。

興石議員：資料の最後に円グラフがあるが、栄区予算の内訳で、個性ある区づくり推進費が７億 ５２５０ 万円になっている。いわゆる区配されて、区が独自に事業で使えるお金は１億円という、よく議会で長く言われてきている一つの基準があるが、それはこの円グラフでいうと一番上のピンクの斜めになっているところを指すのか。

宍戸史織総務課長：区づくり推進費の自主企画事業費という意味でいうと、一番分かりやすいのは５ページの自主企画事業費テーマ別事業構成で、ここの９８９７万６０００円というところが、いわゆる１億円と言われている金額になっている。

興石議員：そうすると、先ほど私が言ったような、栄区らしいもの、タッチーくんのカバーを母子手帳だったかを配っていたりしているような、そういうことに思い切り楽しく使ったらいいと思っているが、それがその約１億か。

宍戸総務課長：そういうものは、この自主企画事業費の中で考えることができると思う。

興石議員：あとの残りの６億 ５０００ 万ぐらいの、今７億という表示になっているが、それは、再分配された局予算で区に特定されたものを指しているのか。

大野副区長：もともと区づくり推進費の仕組みとしては、かつては、本当

に何十年も前だが、ばらばらに各局から区役所に来ていたものを1つにまとめることで、その中で泳ぎやすくするというのを一つテーマとして掲げ、それにプラスで自主企画事業費という、区が自由に裁量を持って使えるという構成になっていたのも、ここにあるような区庁舎管理費だとか統合事務事業費というのは、そちらのまとめたほうのお金ということになり、もともと局区配でやっていた事業を区で工夫しながらやるための経費という形になっているのがこの構成。

興石議員：これまでの表記とまた見比べてみたりするが、いわゆる個性を打ち出していくための予算と、ルーチンで使われていくものの区別が分かりにくいかなと思ったので、その表記についてまた相談させていただきたい。

それにちょっと関連しているのだが、防災マップをまた増刷するというのが前のほうの防災のところにあったが、このマップは、総務局が出しているマップとは別に、栄区が近隣の鎌倉市岩瀬とか大船の玉縄のほうとか、いわゆる災害に関係する他地区のものも載せている、そのマップをまた刷るということになるか。

宍戸総務課長：そのように考えている。

興石議員：実は総務局が出している一律の18区、各区で出しているものと違って、栄区は一般市と隣接している区ならではの情報共有が必要だということで、隣接している水の被害とかも載せるようにして、栄区独自のマップを出してくれていることを多分、区民の皆さんも区役所の皆さんも知らないのではないかなと思う。そういう区民の誇りというか、神奈川県の情報をもっとここに反映させているということになるから、宣伝とかをしてもいいのではないかなと思う。関連して、天神橋の橋のたもとに大きく出している地図とか、やはり看板は現場に出すべきだということで出しているが、予算の出どころというのは、さっきの7億円の中に入っているのか、1億円の中に入っているのか。

宍戸総務課長：防災マップについては、確かに今回、広報6月号でもご案内しているが、表紙だけしかご案内していないので、中身についてはもう少し栄区独自の色が出るようなことをご紹介できるよう工夫していきたい。

興石議員：電信柱に、ここは大雨が降ったとき、ここまで浸水するという青いテープを貼っており、浸水ハザードも提示しているが、他区

にはないと思う。東京湾側の沿岸 6 区は横浜市の施策の中で自動的に浸水のめどを提示しているが、栄区の浸水の危険というのは、東京湾の浸水ではなくて相模湾側からの川の遡上とかに関連してくるので、栄区でないとあれの必要性がない。栄区独自にやっていると思うが、86 か所だったかにあると聞いている。そういうこととかも、より区民の方に分かりやすく伝えていったらいいのではないかと思うが、あれも同じ予算か。

宋戸総務課長：まず、電柱に貼っている浸水の深さの表示だが、予算は 1 億円の区づくり推進費でやっている。電柱に貼ったのが令和 5 年で、最初にやったときには多くの方の注目を浴びたと思うが、2 年、3 年たってくると景色になってしまっていると思う。そのため、また改めて、あれは洪水の浸水の想定区域ということを、そこを行き交う車とか住民の方とかにお知らせしているので、もう少しそのあたりのアピールというか、紹介もしていきたい。

興石議員：長い目で見ると、栄区に住んでいる安心感というのが定住を促していった人口減少に歯止めをかけるという、せっかくやっていることなので、栄区は違うよねという、防災で実際にやっていることというのはこれからもやっていただいたらいいかなと思う。

それに関連して防災スピーカーの記載があったが、点検とか、これも区の予算か。

宋戸総務課長：区づくり推進費の予算でやっている。具体的には、区づくりの資料、9 ページの（１）災害時情報伝達の強化で、スピーカーの保守とか点検をやっている。

興石議員：ある意味、これに関しては区の予算を使わずに、防災スピーカーという昔はなかったものを、各区でどこか手挙げをして区役所の近辺と数か所というところからスタートしているはずなので、逆に局予算をもらってきてもいいのではないか。区独自というよりも、全市的にスタートした事業だと思うがどうか。

宋戸総務課長：防災スピーカーは、今、区内には全部で 18 か所あるが、もともとは総務局が市全体に J アラートの緊急情報などをお知らせするためにつけたもの。その後、それぞれの区ごとに必要があれば追加でつけた。栄区の場合はいたち川や柏尾川の浸水想定区域の風水害対策のためにつけたという経過がある。もともとつけたときの目的は違うが、今では両方同じように連動して利用している。

興石議員：Jアラートを一斉配信するのは別に区民目線で、もっと自分たちの身近な情報を、あの川がどうだとか、そういうのを皆さん知りたがっている。また、お隣の鎌倉に行くと、徘徊してしまっている人の情報とかもスピーカーで流しており、栄区民は隣のことでだからそれを知っている。うちの区でもそういう細やかな使い方をしてほしいとか、地域のイベントが雨で延期になったとか、そういうこととかにフットワーク軽く使えるといいなという声がよく聞こえてくるので、そういう使い方を検討してほしいという声は多いと思う。

穴戸総務課長：防災スピーカーは、聞こえにくいという声も聞いている。防災・危機管理統括本部が新しくつける予定はないと聞いているので、ご意見いただいたように、少し工夫して活用していくことを考えたいと思う。

興石議員：26 ページで里帰り桜のことに触れていて、駅前のシドモア桜とか、複数の里帰り桜が栄区にはあるが、今 18 区で新規に里帰り桜を植えましょうという動きがある。かなりあちこちで植わってきて、横浜グリーンエキスポの会場にも桜の会が出展するし、知名度がまたかなり上がってきている。そうすると、前から里帰り桜がある我が区としては、少し既存のものを使ったPRに使えるのではないかと思う。駅前の里帰り桜と、栄区の木、カツラの宣伝というところで項目が別に書かれていたので、その辺の考え方というか、一步踏み込んでやっていただけるといいなと思う。

丸山土木事務所長：今の駅前の桜関係と里帰り桜と、うちのほうではいろいろ、今年度もクラウドファンディングでやるので後ほど説明するが、桜の展開というのも考えていかなければいけないと、土木事務所としても思っている。区役所関係課と連携しながら、ただ、調査した範囲だと、樹木がかなり老朽化してきている状況がよく分かってきたので、そういうことも含めて、植生とか樹木の環境とかを踏まえて今後、桜とかほかの樹木の樹種の選定とかにも連携して取り組んでいきたい。

興石議員：川が背骨のように長いたち川だから、本郷台近辺を強化するクラウドファンディングはとてありがたかった。でも、ちょっと俯瞰して見てみると、ふるさとの川事業というのは、建設省の事業で過去にあって、そのときに護岸整備とか環境整備とか、全国的にかなり踏み込んでやったその名残がうちの区の財産とし

が残っている状況。そうすると、桜という視点だけ取っても、縦長に各地に桜があるので、今、整備がどうしても、かつての建設省のふるさとの川事業という流れの後には、残念ながらお金をかける対象になっていない。だから、桜にかこつけて、いたち川全体をもう少しやっていたらとありがたい。要望で。

興石議員：横浜グリーンエキスポの交通のことはさっき長谷川議員も触れられていたが、交通のことを徹底的にやっていくという先ほどのご意見をぜひやっていただきたい。行って帰ってこられるようにというのが1つ。あとは横浜グリーンエキスポの事業として、これまでのみどり税を使った地域みどりの活動とかと連動して、栄区独自の横浜グリーンエキスポにちなんだみどりの事業というのを、もうちょっと分かりやすくしっかりやったらいいと思う。横浜グリーンエキスポ出前しますみたいな感じで、行かなくても楽しめるみたいな。そういう、高齢化が進んでいるうちの区で、足の便もなく、あっちも痛い、こっちも痛いという声も聞こえてくる中で、身近なところで横浜グリーンエキスポを楽しめるというもう一工夫はやっていただきたいと思う。

丸山土木事務所長：私の所掌ではないかもしれないことまでお話しさせていただくと、先ほどのふるさとの川関係もそうだが、みどりの今後の展開というのは局とも実はすごく話をしているところ。やはり背骨のように流れるいたち川、その親水拠点をもっと皆さんにPRしたいという気持ちは、実は局とも共有して、この場所どうしようかみたいな話は今、絶賛協議中なので、その辺が固まったら、機会があれば報告したいと思っている。いずれにしても横浜グリーンエキスポ、なかなかない機会なので、そのタイミングでできることがあったら、特にみどりというのは栄区の大きな特徴なので、しっかりその辺は局とも連携してやっていきたいと思う。

興石議員：地域防災拠点の在り方だが、旧野七里小学校の体育館が今使われない状態になって、それで緊急対策として上郷地区センターにしているが、現実的でないのははっきりしていると思う。それで、在宅避難という考え方を市としてもある程度、自助の力に頼っていくという方針が出されている中、国においては防災庁もできて、拠点という考え方を全国的に一律の発想で考えていこうというのを持っていると聞いている。地域防災拠点という言葉を使っ

ているのは横浜市だけで、ほかの町ではその呼び方はしていない。横浜市が独自につくっている地域防災拠点の機能を、ほぼ8割が住宅街のうちの区はどうあるべきなのかというのは考えていくべきで、野七里のことを一つのきっかけにして、あの原状を回復する、在宅避難しやすい拠点の在り方という考え方を持つべきだと思う。避難所ということと、物資の分配拠点として災害時の物資をそこで受け取る場所というもう一つの機能のほうはどうなっているのかというのがやはり気になっているところで、局とも連携していると思うが、現状、この間、局と話したとも聞いているので、今年度中にできる何か考えを今持っていれば、伺いたい。

穴戸総務課長：上郷の件については、避難場所と、それから旧野七里に拠点の機能である備蓄もあるので、今、実際に避難する場所と備蓄している場所がちょっと離れている問題もある。ご指摘のとおり、横浜市としては在宅避難を、ご自宅に被害がなければやはり住み慣れたところで、人からあまり見られることもなくプライバシーも保護でき、場合によっては犬とかペットと一緒に過ごすことができ、何よりもやはり高齢化が進んでいくと、在宅のほうで体力的にも、体調、生活環境が悪くなるということも防げると思っている。栄区としても在宅避難を推奨してきている。今年度中に何ができるかというところだが、現状、体育館が使用できない状況というのは継続しており、区としてもすごく重大な課題だとは思っている。局からは野七里以外にも廃校の学校の施設がほかにもあり、拠点の在り方とか位置づけとかを少し全体として整理していくと聞いている。そこに野七里も一緒に乗っかっていて、ぜひ考えてもらいたいと思っている。

興石議員：難しい問題だと思う。現実、課題の本質をつかんで、区役所が皆さん同じテンションで共有するというのは実は結構難しいし、このたび4月、5月の人事異動というのがあって、もう一度一から学び直さなければいけないという人がいっぱいいると思う。局も区から上がってくる声というのを地元の声の最上位に置いているから、区役所が課題をしっかりと自分たちの言葉で伝えていけるということが局を動かすことに実際なると思うので、今日みたいな機会も私は大事な機会だと思って発言させていただいている。その辺をしっかりとつかんで、一緒に局にもリアルな声を伝え

ていかないとなかなか進まないと思うので、これもお願いしたい。

これが最後だが、選挙の、小中学生に出前をしていくという事業があった。もう10年以上前に、中学生に区役所を視察してもらう職業体験というのをやってもらったが、選挙というのは、投票行動が選挙なのではなくて、自分たちはその行動を通して一体何を選んでいるのかということが伝わっていなければならず、単に鉛筆で何かを書くという行為ではない。我々議会の議員は、市役所の業務とか予算の使い方とかそういうことが適正かどうか、皆さんの労働環境は働きやすい環境なのかとか、そういうことを見ていくのが仕事。そのために誰を送り込むか選ぶのが選挙なので、中学生にぜひ区役所を、区役所の職員の皆さんがどうやって働いているのかを見てもらったら、お互いにすごく身近になるし、いいのではないかと提案をさせていただいて、かつてやってもらった。予備勉強もしてもらって来てもらうということをやったので、ぜひ中学生にこの1階から4階まで新館・本館を見てもらって、ここにこういう仕事があって、行政職員の方たちは選挙では選ばれないので、自分たちが直接選べるのは誰なのかということを伝えていかなければいけない。ぜひここにも予算を使わせていただいて、知恵も絞っていただいているので、中学生の有権者教育ということの根本をぜひやっていただきたいと思います。

唐澤英和学校連携・こども担当課長：現在、区内の中学校6校中2校が数名ではあるが、区役所にも来て職場体験をしている。中学生に区役所の業務を見ていただきたいというところは分かる部分が非常にあるが、今の教育の方針は、子供たちの主体的な学びを応援するというような流れになっているため、中学生本人から区役所の業務を学んでみたい、見てみたいという話があれば、我々に相談していただければ対応することができると思っている。

宍戸総務課長：選挙という立場から、主権者教育というものは本当に非常に大事だと思っている。この出前講座は、実際に使う投票箱とか投票用紙を持ってその場を体験してもらうというもの。ただ、そこが目的ではなくて、中学生も数年後には立派な有権者になるので、そこまでに主権者教育、まさに政治とか社会とか、自分の考えで投票できる、そういうものを身につけてほしいと思って継続的に出前講座をやっている。まずは出前講座で小学生・中学生

に選挙というものに関心を持ってもらう、というところから始めて、それを見ていただいた先生方から何かお話を頂くような形に進んでいけばいいと思っている。

大桑座長：横浜グリーンエキスポだが、まず行き方の広報が足りないと思う。車で行くのか電車で行くのか、どこに駐車場があるのか、どういうシャトルバスがあるのかというのがある。また、大阪万博のときがそうだったと思うが、開幕してから初めのほうがすいていると思う。なので、そこら辺はざっくばらんに町内会の会長さんとかに、季節的にも多分いいと思うので、皆さんぜひ初めのほうに行ってくださいと、広報をしていただいたほうがいいと思う。どうしても終わりになればなるほど暑いし混んでくると思うので、そこはぜひうまくいい意味で共有していただいて、広報してほしい。

確認で、23 ページの区民まつりは 11 月 1 日開催となっているが、去年は県の警察学校でやらせていただいた。会場については今年もこれから交渉ということなのか、ある程度確定しているのか、現時点でもし話せることがあれば教えてほしい。

吉田地域振興課長：区民まつりの会場については、6 月 22 日に開催する第 1 回の実行委員会に諮り決定していく流れになっている。実際には、今、警察学校と調整に入っている。

大桑座長：承知した。

17 ページの区役所本館 1 階待合環境向上事業とかほかにも区役所の使い方とかあったと思うが、新館と本館の 1 階に給水スポットがあったり、本館に子供が絵本を読めるところがあったり、そういうところの利用具合というのは集計とか何かあるか。また、そういう広報は多分、始めたときにやっていたと思うが、これから暑くなるので、もう一度、リマインドしたりするのか。

杉田和成戸籍課長：本館 1 階の子供の読書スペースは、乳幼児健診がある日や土曜開庁の日に、たくさんのお子様に使っていただいている。数字はカウントしていないので体感で申し上げると、毎日コンスタントに使っていただいている状況である。

大桑座長：あと給水スポットとかも含めて、結構授乳スペースもあったりして、そういうお知らせみたいなのが貼ってあるのか、改めてその時々に行っているのか、そういうところはどうか。

松永区長：給水スポットについては、今、その場所での広報になってしま

っているが、授乳スペースについては、ちょっと見えないような位置にもあるので、職員からお声がけするような形でご案内している。

櫻井区政推進課長：給水器の実際の使用量だが、直近の5月のデータで、本館1階は562リットル、新館1階は373リットルで、合計でいうと935リットルとなっている。

大桑座長：それはどれぐらいの人数か。1リットルだと1000人なのか2000人なのか分からない。かなり使っていると思うが月での使用か。

櫻井区政推進課長：5月の使用量となる。

大桑座長：10ページの地域防災拠点支援事業だが、避難所運営ゲームは今年からか。多分、去年とか市会で質問とかやり取りがあって、今年から始めているのか、去年からもう始めているのか、やった方からは結構面白いという話を聞いているが、栄区でもやっているのか、それともこれからやるのか。やっていけば反響はどうか教えてほしい。

宍戸総務課長：HUG訓練は、かなりいろいろな拠点でもう既に個別にやっているとは思いますが、今回あえて予算をつけてやろうと考えている。HUGという避難所運営ゲームだが、今、栄区のそれぞれの拠点での課題としては、拠点の委員長や運営委員を長くやられている方は、拠点でも蓄積されているので自立して拠点を運営しているが、運営委員長が毎年代わるとか、そういうところはなかなかノウハウの蓄積ができていない。それで避難訓練も、例えばハマッコトイレを組み立てるとか、発電機を使うとか、開設するという個々の取組はできるが、全体として拠点の運営をどうやっていくかというところをもう少し進めてもらいたいと思っている。こういう避難者が来て、その方を平面図の拠点のどこに配置するかということを考える。例えば高齢のご夫婦が来られた、夫は持病がある、妻は軽い認知症がある、この方々が避難してきた場合に皆さんはどのように拠点に配置するかというような、そういうゲームになる。皆さんで考えていただいてお互いに意見交換して、うちの拠点だったら要配慮者のスペースを作ろうとか、そういうことを考えていただきたいと思っている。

大桑座長：今回あえて予算化したということは、ある程度全部の拠点でやるということなのか、イメージ的にはあくまでも役員の方というか、地域防災拠点の担当になった方だけか。

	宍戸総務課長：HUG訓練は各拠点で希望を取っており、10 拠点で希望するところに手を挙げてもらっている。 大桑座長：決まっているのか、これからか。 宍戸総務課長：これからだが、早速、この5月28日に手を挙げてくださったところがあった。 大桑座長：長くやっていただいているところはいいが、地域によって毎年毎年、運営委員が替わったりしているところは、その年に一生懸命やるところだと訓練もやったりするが、役員の方だけは知っているけれども、訓練も何も全く町内会としてやっていないとか、いろいろ温度差があったりすると思うので、ぜひそこら辺はまたいろいろ教えてほしい。 最後に9ページの(1)②の訓練だが、これは案内しているか。7月となっているが、机上訓練なのか、区役所だけの訓練なのか、どこかでみんなを巻き込んでやるのかとか、後でも結構なので教えてほしい。 宍戸総務課長：防災スピーカーの訓練で、区役所がやっている。 興石議員：生活保護関連費というのが15億円ぐらい入っているが、その内訳と、ここ数年の推移みたいなものがあれば、後日で構わないので教えてほしい。 大塚生活支援課長：後日、用意させていただく。 大桑座長：ほかに発言がないようであれば本件は以上となる。 会議報告書の作成については座長一任。了承
備 考	